

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472100056		
法人名	医療法人社団 リラの会		
事業所名	グループホーム リラの風		
所在地	宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉字八山4-18		
自己評価作成日	平成24年2月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokouhyou.jp/kaijosip/infomationPublic.do?JCD=0472100056&SCD=320&PCD=04
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台3階		
訪問調査日	平成24年2月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営法人「医療法人社団リラの会」の介護保健施設には、当事業所の他に介護老人保健施設リラの郷、訪問看護ステーションリラの花、ショートステイリラの虹を一体的に運営しており、法人が理念として掲げている1.誠実で仁愛なる奉仕 2.笑顔と輝きのある介護を常に意識しながら、利用者支援を行なっている。その介護老人保健施設からは、医師をはじめ、看護師、作業療法士、理学療法士、管理栄養士などの専門職から、指導・助言及び技能の提供があり、入居者一人ひとりに合わせて提供している。そのため、入居者の安心に繋がっている。事業所は遠刈田温泉でも孤立した地域にあり、コミュニティ意識の希薄な土地柄ではある。しかしながら、入居者は地域行事への参加、町内への買い物・お出かけ行事等を定期的に行っており、地域住民の一員としていつまでも安心して暮らし続けられるように支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

遠刈田温泉蔵王別荘地を通りぬけ、やや奥まった場所に位置しており、自然豊かで眺めも良く、四季を楽しめる環境にある。「住み慣れた地域の中で一人ひとりの声に耳を傾け、寄り添っていく。その人らしさを失う事なく最後までゆっくり豊かに」を理念に掲げ、職員は明るく、利用者の立場に立って介護に真剣に取り組んでいる姿勢がうかがわれた。敷地内に、介護老人保健施設や通所リハビリセンター、訪問看護ステーションなどの関連施設があり、合同での諸行事や人事交流を行っており、介護と医療の協力・連携で利用者、家族に安心感を与えている。職員へ「アイデア大賞」の募集や「自己評価シート」などを活用し、運営に関する意見や提案を聞く機会を設けて、職員の育成とサービス向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホーム リラの風 ）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の尊厳やその人らしさを保てるように理念に基づいた支援を職員一人ひとりが実践していけるように、理念を食堂ホールの見えやすい位置に掲示している。	理念は食堂ホールと玄関の見やすい場所に大きく掲示してある。その人らしさを失う事なく、ありのまま受け入れるように、職員が「申し送り簿」を活用するなど、理念を共有して、日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サロンのメンバーが定期的にお菓子作りや花壇作りなどに来てくれており、地域との交流がある。そのほかにも、地域の行事にも参加しており、地域との関わりが継続できるように支援している。	町内会に加入し、町の広報誌は届いている。夏祭りや「七日原長寿会」や「にこにこサロン」などの地域の行事に参加している。お菓子作りや草刈り、花壇作りなどのボランティアの支援を得て交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で行なう毎年恒例になっている夏祭りには地域のボランティアの方々にも参加して頂き、実際に介助してもらっている。それにより、認知症を理解してもらえる良いきっかけになっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	主に行政職員、地域サロンのスタッフ、家族会の代表者を中心に委員のメンバー編成をしている。入居者の活動状況を中心に報告しているが、双方向的な話し合いになるように、改善点、要望点があれば意見を出していただいている。	メンバーは職員、老健事務長、看護部長、ショートステイ責任者、住民代表、家族代表、地域包括職員、行政職員で年6回開催している。町内会から「山の上でなく、もっと気軽に集まれる場所にあるとよい」との要望が出された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	成年後見制度などわからないことがあれば、役場内にある地域包括支援センターに相談している。1月に『蔵王町介護支援専門員研修会』に参加したことで、ケアマネジャー同士の情報交流に役立っている。	「蔵王町介護支援専門員研修会」に参加し、お互いに情報交換する中で、相談しやすい関係が構築されている。利用者の装具の修理に関して相談し、指導を受けた。町の職員が外部評価に同行している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で『身体保護委員会』を定期的開催している。日中は玄関の施錠は行なっておらず、外へ出て行かれる入居者がいたら、そばに寄り添い、一緒に行動するようにしている。	日中は玄関の施錠をしていない。法人が「身体保護委員会」を毎月1回定例開催しており、事業所から2人職員が出席し、事例検討や再発防止などの伝達学習をしている。徘徊気味の方にさりげなく、そばに寄り添い、散歩を一緒にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	認知症高齢者の尊厳が失われないように、特に言葉での虐待に気をつけ、日頃から職員同士で注意を喚起し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用されている入居者がいるので、解らないことがないように、職員同士で日ごろから話し合う機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者とご家族への契約に関する説明は管理者が行なっている。1月の料金改正についても、利用者・ご家族への説明を行ない、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの玄関に「ご意見箱」を設置しており、苦情・意見等を聞く機会を設けている。要望等があれば、法人内で検討するようにしている。また、運営推進会議の場でもご家族からの要望等を聞く機会を設けている。	法人内関連施設の家族会に参加しており、運営推進会議で家族会の報告をしている。「ご意見箱」に「味付けや家に帰りたい」など、利用者からの投書があった。「リラの会便り」を2ヶ月に1回、写真もそえて家族に届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の代表者は年1回、運営に関して、「アイデア大賞」を募集している。その受賞者に対して企画・実行まで任せている。	毎月開催の6委員会(危機管理、感染対策、健康管理、身体保護、環境整備、足浴)に職員が参加している。年1回「アイデア賞」を募集して「新春の集い」で発表するなど、職員の意見や提案を大事にしている。職員のアイデアの「アロマ足浴」は利用者から喜ばれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の代表者は年2回、職員へ『自己評価シート』の記入を求め、改善点を自覚出来るようにしている。それに対して、どう対処すればよいのか、代表者、管理者は職員に対し、アドバイスをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTが基本となる新人研修は老健施設と共通であり、入社後必ず実施している。入社後も各種委員会に配属され、定期的に委員会を開催しており、職員を育成する仕組みが出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の代表者は、外部の研修があれば、平等に参加させている。研修に参加した職員に研修の内容を発表させる機会を設け、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員・管理者がご本人に直接会って、要望や困っていることなどをお聞きしている。傾聴を心がけ、あるがままの状態・姿を受け入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護支援専門員・管理者がご家族に直接会って、要望等を聞くようにしている。また、入居後も疑問点・不安なことがあれば、その都度相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が『アセスメントのための情報収集シート』と『課題検討用紙』を使用してアセスメントを実施している。出来ること出来ないことを見極め、その人に必要な支援方法を他のサービスも含め検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の残されている能力を生かすために生活のなかで、一人ひとりに役割・出番を作っている。また、定期的にお出かけやお菓子作りを実施して喜びや感動をともに感じられるような働きかけを行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診の付き添いはご家族に依頼しており、その時に状態や体調をみていただけるようにしている。また、入居者が落ち着かなくなったりなど、ご家族に面会に来てもらうなどして、ご協力いただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室に行ったり、必要なものがある時は買い物に行くなどして、一人ひとりの馴染みの関係が継続出来るように外出支援している。地域の行事がある時は、参加して地域との関わりを継続出来るように支援している。	馴染みの床屋や買い物など、個々人の希望にそって外出支援をしている。友人、親戚の方が訪ねてきて、部屋でお茶を飲みながら、和やかに過ごせるように支援したり、地域の人たちとクリスマスコンサートに出かけたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係は職員が間に入ることで、良い関係を保つことも出来るし、逆に関係を悪化させてしまうこともあるので、カンファレンスの時に話し合い、対応の方法を統一している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移るときやご自宅に戻るときは環境の変化に対応できるように、ご本人の同意を得たうえで情報を提供している。契約終了後も相談ごと等があれば、随時受け付けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初期段階のアセスメントにて、ご本人の思いや希望を聞き取りするほか、入居されてからも継続的なモニタリングにて、変化するご本人の思いを受け止めるようにしている。	就寝ケア時、職員と2人になった時などに、利用者の思いや希望を聞いたり、一人ひとりの状況を把握するように努めている。「友人と旅行したい」との希望を家族の協力を得て実行に向けて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方や生活環境についてご本人・ご家族から情報を頂くようにしているほか、普段の関わりの中からご本人が培ってきたものを探し出し、ケアに生かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日決まった時間に血圧測定しており、その際、心身の把握に努めている。また、いつもと違った行動・言動が聞かれた時は記録して情報の共有に努め、ケアに生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員が担当のケースについて、月1回モニタリングを行っている。3ヶ月に1回ケアマネージャー、担当職員を中心に職員で話し合い、介護計画の見直しをしている。入居者及びご家族に説明、同意を得ている。	月1回担当介護職員がモニタリングを行っており、ケアプランはケアマネージャーが作成している。3ヶ月に1回、利用者、家族の意見や要望をもとに、職員が話し合いケアプランの見直しをして、家族に説明、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の生活の様子を個別記録に記入しており、その内容を夜勤者が朝の申し送りで発表している。もし、変化や気づきがあれば、参加している職員で話し合うようにして、その話し合いの結果を介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	老健施設のリハビリ器具を利用したり、行事に参加するなど、併設の利点を活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域長寿会の行事(クリスマス会など)へ参加して、地域の方々との関わりを大切にしている。また、いきつけの理髪店に行くなど、社会性を維持できるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居される以前より利用していたかかりつけ医を引き続き利用していただくよう、職員がご家族が受診支援している。ご家族が受診支援する場合は、生活の様子や病状を『受診申し送り書』でお伝えしている。	多くの利用者が以前からのかかりつけ医であり、定期受診は月1回となっている。家族の受診付き添いが無理で、職員が同行した場合、3,000円+(交通費1K当り30円)にした。受診の結果は家族に面会時や電話で報告している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者が体調を悪くしたときや処置が必要などときは、老健施設の看護職員に診てもらっている。入居者の急変時は連携する体制が整っているため、入居者の安心に繋がっている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院、救急搬送するときは『介護情報書』『患者申し送り書』を作成して、適切な情報を提供するようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応方法について、『重要事項説明書』をもとに入居者・ご家族に対して説明・同意を得ている。	看取り経験はない。入居時に「重度化対応指針」の説明をして同意を得ている。重度化した場合、老健施設へ入所できるように連携体制をとっており、利用者、家族の安心につながっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	『ヒヤリ・ハット報告書』を参考に対応方法を職員間で話し合い、再発防止に努めている。急変・事故発生時の対応については、『AED』の訓練を行なっている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時発生マニュアルに従い行動するように、職員へ周知徹底している。避難訓練は老健施設と共同にて年2回行なっている。また、食料を3日分備蓄している。	避難訓練は老健施設と合同で5月と11月の2回実施している。11月の夜間想定訓練では職員の実施となっている。避難通路や消火器設備の点検などの訓練はしているが、地域住民の協力が得られていない。	地域の特殊性を考慮しつつも、これまで交流している地域住民に避難訓練の参加を呼びかけ、今後の協力を依頼するなどの連携を期待する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の居室に入るときは、必ずドアをノックして承諾を得てから入室するようにしている。排泄の時も失敗ないように、あるいは失敗してもさりげなくサポートするように配慮している。	その人その人の状況を家族からうかがいながら、希望にそって「さん」づけで呼んでいる。利用者の表情や態度に気配り、目配りして丁寧な言葉使いで話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を職員へ伝えやすい雰囲気づくりに努めるとともに、思いをうまく表出できない入居者には、居室にてマンツーマンで対話するなど、その人の性格に合わせた対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間に起きたくないという入居者には、無理にお誘いせず、時間を置いてから声かけするなど、入居者の心の動きに配慮した対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴の際、衣服を準備できる方は、ご自分で好きな衣服を選んでもらっている。ご自分で出来ないかたは職員と一緒に準備したり、着たい服を選んでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の方に順番で『いただきます』の声かけをしてもらって、食べることへの意識付けを行なっている。職員と入居者は同じテーブルを囲み、楽しく会話しながら食事をして、後片付けも一緒に共同で行なっている。	利用者が「いただきます。ごちそうさま。」とあいさつし、職員も和やかに同じ食事をしている。調理や後片付けも一緒にしている。3ヶ月に1回、老健施設の栄養士が栄養チェックを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の咀嚼・嚥下能力に合わせて、刻んだり、一口大にして提供している。カロリーの過不足や栄養バランスの面から、献立について老健の管理栄養士に三ヶ月に1回は相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は就寝前に義歯洗浄剤を使用したり、自歯の方は毎食後ブラッシングをしている。必要に応じて、歯科住診に来ていただき、口腔状態を診てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつは使用せず、トイレでの排泄を支援している。誘導をしたり、汚れてしまったときは、自尊心を配慮したうえで、交換をお手伝いしている。	オムツ使用している利用者はいない。夜間のみリハビリパンツを使用している方がいる。一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄支援をしている。便秘の方への下剤の投与など、個々人に対応支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、食物繊維を含む野菜を多く取り入れた献立にしている。食事以外にも10時・15時にお茶やコーヒーなど飲んでいただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回、1対1で入浴出来るように支援している。もし、入りたくないという時は、無理に勧めず、別の日に入浴していただいている。入浴とは別にアロマ足浴も定期的実施している。	入浴は本人の希望に応じているが、平均週2回入浴となっている。入浴拒否をしている方には、順番や担当者を変えたり、翌日に変更したりして、無理強いせずに対応している。アロマ足浴も好評で、利用者から喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事とお茶の時間以外は基本的に個人の自由にしていただいているので、日中でも好きな時に休息できるように支援している。一人ひとり寝る時間や起きる時間が異なるので、その人に合った生活習慣が維持できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	『入居者内服薬一覧表』を作成しており、いつでも確認できるように保管している。薬の取り扱いについては、一定の職員に偏らないように、準備する者、内服させる者を分担している。内服については、入居者の能力に応じて内服してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの保たれている能力に応じて、役割を持っていただいている。お菓子づくりなども定期的に行っており、『出来ること』を手伝ってもらっている。作る喜び、食べる喜びを共感できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物は気分転換を兼ねて、町内のスーパーにお出かけしている。年間行事として、みちのく杜の湖畔公園、紅葉狩り等に入居者全員でお出かけしている。家族が面会に来たときはドライブや外食をして家族団らんの時間を作っていただいている。	老健の中にある「ひだまり喫茶」で楽しんだり、老健の中庭や周りを散歩したり、買い物支援や外食に家族の協力を得て、外出支援をしている。ボランティアと一緒に「ブルーベリーファーム喫茶」や紅葉狩りなど利用者全員でドライブに出かけた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとり金銭出納帳を作り、その中から買出し時に、ご本人の好きなものや必要なものを購入して頂いている。身体的に買い物へ行くことが出来ない方に対しては、欲しいものを予めご本人に確認してから購入を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は事務所のものをいつでも使用できるようにしている。家族や知人からの電話の取次ぎも事務所のものを使っていただけるように配慮している。手紙のやり取りも随時支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の食堂ホールから外の景色が良く見えるように、窓が大きくなっている。季節の移り変わりが楽しめ、窓から入ってくる光や風が心地よい。また、外出時の写真やレクリエーション時に作成したものを展示することにより、記憶を呼び起こす効果を期待している。	食堂ホールはガラス窓が広くて明るい。窓から山々の季節の移り変わりが一望でき、心地よく過ごせるように工夫されている。床暖房で温度、採光も良好である。季節の写真や利用者の今年の願い事、手作りカレンダーなど貼ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの外内にベンチを設置して、食堂ホール以外でもくつろぐ事が出来る入居者同士の憩いの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室畳張りの居室に、一人ひとり使い慣れた電化製品、家具などを持ち込み、落ち着いた空間のなかで生活していただいている。また、手作りのカレンダーや思い出の写真や飾り、居心地の良い空間になっている。	居室は全室畳敷きにベッドを使用している。整理筆筒、ラジオ、カラオケセット、仏壇など馴染みの物を置いてある。パソコンを持参して年賀状を作成している方もいる。掃除や洗濯は利用者と職員が一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者が迷わないように、トイレ・浴室・台所などに看板を表示している。また、各居室・浴室・トイレ・廊下に手すりを設置して、歩行が困難になっても自立できるように環境を整えている。		